

大学図書館と電子書籍

筑波大学附属図書館 副館長

加藤 信哉

skato@tulips.tsukuba.ac.jp

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

1

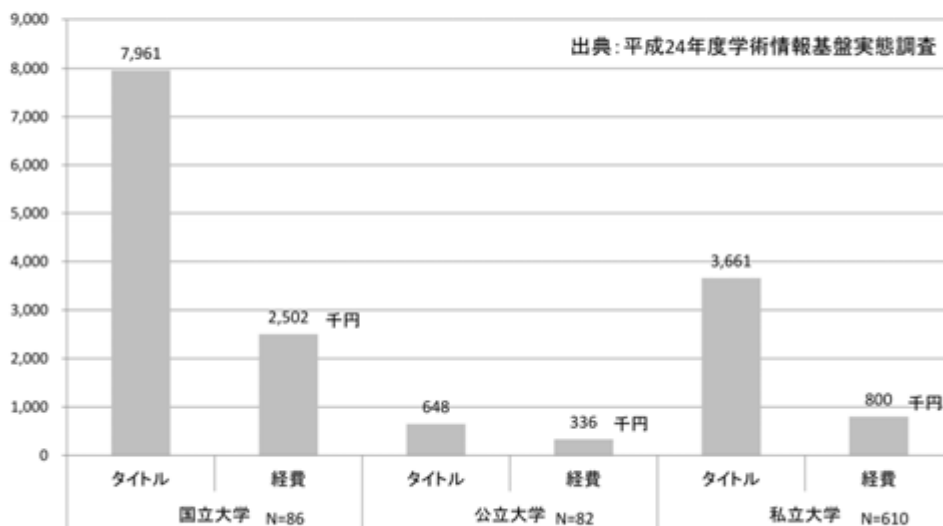
ただいまご紹介いただきました 筑波大学附属図書館 副館長の加藤でございます。

本日は、はじめに大学図書館における電子書籍の現状、次に[国立]大学図書館が認識している課題と今後の取り組みをご紹介します、最後に電子書籍ビジネスモデルの展開について個人の見解を述べたいと思います。

なお、電子書籍と従来の書籍の違い、著作権、電子書籍の学習・教育・研究上の意義、利用(環境)等については言及いたしません。また、筑波大学を除き、データは公表された資料に限定いたしました。

スライドと配布資料は同じです。字が小さな場合は適宜スクリーンもご覧くださるようお願いいたします。

大学図書館における電子書籍の導入 状況：平成23年度（1） N=778



2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

2

- ・平成23年度における設置主体別(国立, 公立, 私立)の電子書籍の利用可能平均タイトル数(受入数ではない、蔵書数に近い)及び平均購入経費
← 電子書籍のデータは平成22年度から(学術情報基盤実態調査)

- ・設置主体別大学図書館最大導入タイトル数

国立大学:75,353 公立大学:15,868 私立大学:439,117

出典:学習環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)p.29

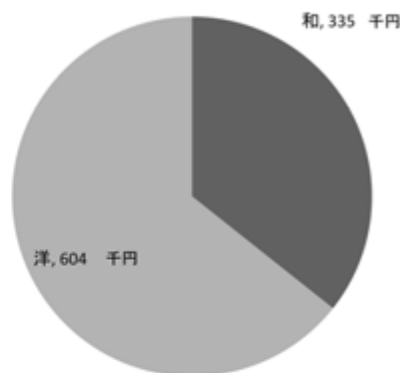
→ 国立, 公立, 私立でかなり導入状況に違いがある。

大学図書館における電子書籍の導入 状況：平成23年度（2） N=778

和洋別平均タイトル数



和洋別平均購入経費



出典：平成24年度学術情報基盤実態調査

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

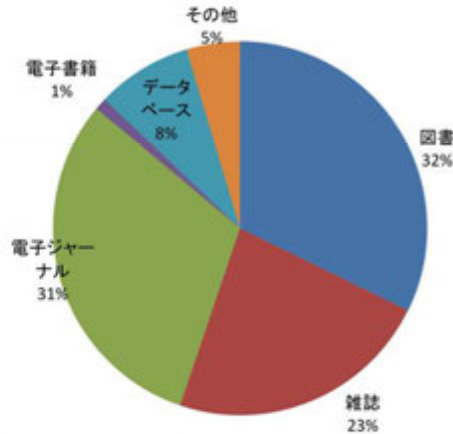
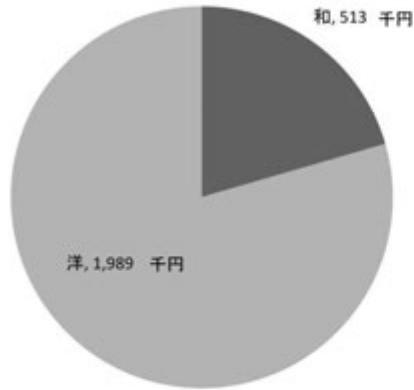
3

- ・平成23年度における大学図書館の電子書籍の和洋別の平均タイトル数及び平均購入経費
- ・和は国内出版物，洋は国外出版物の意味
- ・電子 タイトル 和 3% 洋97% 購入経費 和36% 洋43%
図書 タイトル 和84% 洋16% 購入経費 和67% 洋33%
→ ①国外出版物の購入が圧倒的に多い。購入図書と逆。
②電子ジャーナルのパッケージ契約との関連が強い。
③単科大学は国内出版物に支出している経費が多い。 → 学術情報基盤実態調査

大学図書館における電子書籍の導入 状況：平成23年度（3）

国立大学図書館の電子書籍平均購入経費 N=86

大学図書館の図書館資料費 70,518,319千円 N=778



出典：平成24年度学術情報基盤実態調査

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

4

・国立大学図書館の電子書籍平均購入経費

タイトル 和3% 洋97% 購入経費 和21% 洋79%

→ 国立大学のみ大学全体の割合と異なっている。

・大学図書館の図書館資料費

電子書籍 1%(730,655千円) 図書32%(22,733,323千円, 和書15,173,135千円)

→ 電子書籍を含む大学図書館の書籍の市場規模は23,463,978千円。

図書購入費は減少。

平成22年度	平成23年度	減額
23,836,330千円	22,733,323千円	1,103,007千円 (5%) の減

電子リソースは増 (EJ5%, 電子書籍12%, DB10%), 紙資料は減 (図書5%, 雑誌7%)。

→ 紙から電子への支出の転換が起こりつつある。

筑波大学の導入状況：平成23年度

- 利用可能タイトル数
75,353タイトル(国立大学最大規模)
- 主な出版社
American Chemical Society, Cambridge University Press, EBSCOhost (NetLibrary), Elsevier, ProQuest (ebrary), Springer, Wiley-Blackwell
- 購入経費
9,703千円
- 利用件数：2011年(COUNTER Book Report 2)
15,590件(NetLibraryを除く)

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

5

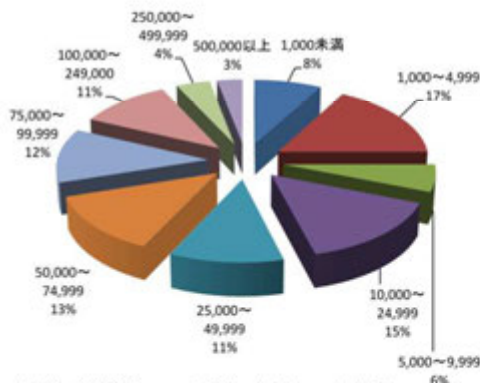
- 利用可能タイトル数
和書は200タイトル強(NetLibrary)
平成22(2010)年から重点整備
2013年は2010年の2.32倍のタイトル数
- 主な出版社
ACS 60(シンポジウム), Cambridge 605, Elsevier 17(参考図書), NetLibrary 238, Springer 9,184[パッケージ契約], Wiley-Blackwell 431(Wileyは参考図書)
Springerは全体の87%
- 利用環境
図書館ウェブサイトに電子書籍の案内ページあり, 出版社サイトへリンク。蔵書検索システム(OPAC)で検索, 本文へリンク。
- 利用件数(利用統計取得タイトル数 10,535)
BR2: 月別セクション別利用件数
15,590件(1.48件) Elsevier 967件(56.88件)[参考図書]
NetLibrary 458件(1.92件)和書 268件(59%)

→ 利用は多いとはいえない。
- 参考: 国立A(8学部以上) 12,808タイトル 6,037千円

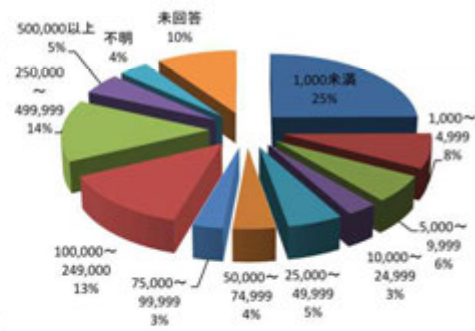
米国と英国の大学図書館導入状況

米国の大学図書館: 2012年
N=339

英国の大学図書館: 2010会計年度
N=165



出典: 2012 Survey of Ebook Usage in U.S. Academic Libraries.



出典: SCONUL Annual Library Statistics, 2010-2011.

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

6

・購読タイトル数

・比較

日本 平均 3,820タイトル

米国 標本 25,000タイトル以上整備している図書館の全体比 54%(183館)

平均 91,900タイトル整備(前年比約41%増)

英国 悉皆 10,000タイトル以上整備している図書館全体比 51%(79館)

→ 日本よりもはるかに整備されている。

大学図書館が認識している課題(1)

- 国内の電子書籍
 - ①電子書籍の供給ルートが図書館と個人で区別されていること
 - ②新刊が少なく既刊紙書籍の電子版であること
 - ③電子書籍の販売品目の選定
 - ④電子書籍の価格体系
 - ⑤大学図書館の電子書籍市場としての評価
 - ⑥資料の図書館間相互利用
 - ⑦電子教科書への出版社への関心

出典：大学図書館における電子書籍のサービスに向けて

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

7

・スライド7からスライド9まで国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報流通小委員会の報告「大学図書館における電子書籍のサービスに向けて」から抜粋。

・大学図書館においても電子書籍への取り組みが直接的な課題となってきたため、電子書籍の状況について調査し、大学図書館としての課題と提案をまとめたもの。

・公共図書館4館にインタビュー調査、電子書籍のプロバイダや書店等6社にヒアリング調査を実施。

「大学図書館における電子書籍は試行的な導入に止まっている」と認識。

・国内

- ①紙の書籍と大きく異なる。大学図書館は個人と同じで書店や出版社から自由に紙の書籍を調達できる。
- ②大学図書館に販売されている電子書籍の絶対的な点数も少ない。紙書籍として図書館で既に購入されているものが提供。図書館では買い切りモデルによる販売のみ。
- ③電子書籍の品目選定がどのようなポリシーであるかが必ずしも明らかでない。
- ④価格は同時アクセス数により可変で同時アクセス1の場合でも1.5倍。
- ⑤大学図書館は今後の電子書籍の販売先の市場として認識。
- ⑥プリントによる方法でも認めていない。
- ⑦学生向けの電子書籍への関心は高いが、大学図書館に提供する意思がない。

大学図書館が認識している課題(2)

- 外国の電子書籍

- ①導入状況等

- 大手の商業出版社系のほかには、いずれも
[導入数が]非常に少ない。

- ②契約条件等

- 出版社・書店からの契約条件について交渉が
されておらず、書店等から提示条件のまま導
入している。

出典：大学図書館における電子書籍のサービスに向けて

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

8

- 国外

- ①需要の見極めが難しい。

- ②電子ジャーナルと異なり導入数が少ない。試行としての位置づけ。

今後の取り組み(提案)

- 大学図書館界として
 - ①出版・流通関係者に国内の電子書籍新刊や個人向けの電子書籍の供給を積極的に働き掛ける。
 - ②電子書籍の商品タイプや価格設定方式, 利用条件等について, 積極的に検討し, 出版流通関係者に提案・協議する。
 - ③外国出版社, 供給企業にも, 価格や利用条件について積極的に交渉を進める。
 - ④出版・流通関係者への積極的な働き掛けと協議を行うために, 組織体制を確立する。

出典: 大学図書館における電子書籍のサービスに向けて

2013/10/28

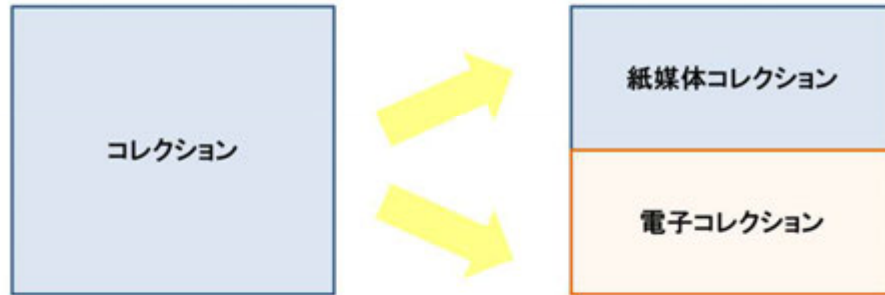
図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

9

- ①電子書籍の供給と提供は大学図書館の存亡問題。
- ②予約購読(Subscription)モデルについても有効な資料群(実用書, 資格資料等)の可能性や妥当性を検討する。
- ③導入が伸びる可能性もある。
- ④課題に取り組むためには, 体制整備が必要。共通課題として, 国公私立大学図書館協力委員会や関連機関での対応, 組織体制の整備が必要。電子書籍の課題は, 公共図書館とも共通するところが多い。まず, 大学図書館として取り組み, 公共図書館との連携・共同は次の段階。

電子書籍のビジネスモデルの展開のために(1)

図書館コレクションの分化



2013/10/28

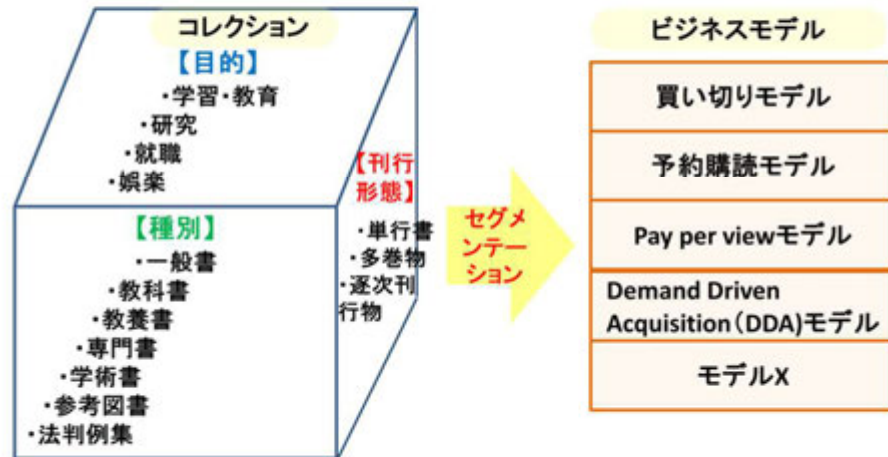
図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

10

- ・スライド9の②の展開
2013年3月25日に慶應義塾大学で開催された大学図書館電子学術書共同利用実験報告会でのパネルでの発言を敷衍。
- ・図書館コレクションは今後、紙媒体(印刷体)コレクションと電子コレクションとに分化。
- ・学術雑誌は印刷体から電子にほぼ移行。
- ・図書については急激な進展が予想。

電子書籍のビジネスモデルの展開のために(2)

コレクションの「セグメンテーション」が電子書籍のビジネスモデルへの変換に必要



コレクションを「賽の目」に切るには「分野」「利用者」等も重要

2013/10/28

図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナー—in東京

11

・図書コレクションの「セグメンテーション」が電子書籍のビジネスモデル(主として契約モデル)への変換に必要。

・図書コレクションのセグメンテーション=コレクションを「賽の目」に切りだすためには、種別、刊行形態、分野、利用者等の組み合わせが考えられる。
例) 継続購入図書 → 予約購読モデル

既に「賽の目」に切りだされたコレクションもある。

例) 辞書・辞典[最新の状態] → データベース → 予約購読, 都度払い

・新しい契約モデル

例) レンタルモデル: 一定期間, 閲覧が可能。コピーやダウンロード付加
短期間貸出と変わらない

参考文献

- 平成24年度学術情報基盤実態調査

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001015878>

- 国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報流通検討小委員会 平成24年度調査報告 その1 『大学図書館における電子書籍のサービスに向けて—現状と課題—』

平成25年6月

<http://www.janul.jp/j/projects/si/gkjhoukoku201306a.pdf>

参考文献は電子書籍の現状と課題と今後の取り組みについてそれぞれ引用した資料とインターネット上の入手先です。

本日は、大学図書館における電子書籍の現状、[国立]大学図書館が認識している課題と今後の取り組みについてご紹介し、電子書籍ビジネスモデルの展開について私見をお話いたしました。ご清聴を感謝いたします。